

参考資料：委員アンケートより抜粋（文化・スポーツ関連）

区の好きなおところ

（伝統・歴史）

・本物が生きる街

地域のお祭りや盆踊り、伝統工芸や銘品名店、相撲文化や花街文化、多くの下町江戸文化が生きている日常を、保護・保全ではなく、本物として毎日の生活の中で感じることができる。

・江戸時代以来の文化・伝統が息づいており、墨田区の顔ともなっていること。

・名所、名跡、案内、著名人の跡地、関東大震災、東京大空襲などの案内、墨田区は頑張っていると思います。これをもっともっと掘り出し点から線にして、昔と現在が一緒に感じられるようにしてもらいたい。

・歴史ある文化や施設と新しい文化や産業が調和していること。

相撲や花火など古くから続く文化と回向院や安田庭園などの歴史ある施設があります。

一方で、スカイツリーをはじめとする商業施設やアストロスケール社など新しい産業もあります。調和があり魅力を感じています。

・国技館、江戸博、スカイツリーのような大きな名所の他に、「すみだ小さな博物館」等

伝統工芸を大切に、それを地域に開いて体験できるような場があること。

・江戸・下町文化を中心に非常に多くのコンテンツに恵まれている。北斎・相撲・川・桜・花火・料亭街・歓楽街・スカイツリー・町工場・勝海舟・忠臣蔵・芥川龍之介・華屋与兵衛・王貞治など。

・歴史を感じられる場所が多い。

（文化芸術）

・墨田区音楽都市構想の実現に向けた取組み。東京の東の副都心である錦糸町の立地に、フランチャイズオーケストラのあるすみだトリフォニーホールが文化芸術振興の拠点としてあり、このホールを核にして誰もが音楽を身近に感じられるよう様々な事業展開をするとともに、地域活性化につなげていること。

・すみだ北斎美術館において、世界に誇る葛飾北斎の魅力を伝える多種多様な事業企画を実施し、区内外に情報発信するとともに、地域活性化につなげていること。令和5年度では、年間約15万9千人の入館者を記録しており、多くの人を集められる公共施設であること。

・すみだトリフォニーホールやすみだ北斎美術館以外にも、両国国技館、江戸東京博物館、刀剣博物館、とうきょうスカイツリー、隅田川花火大会、墨堤の桜など数多くの文化観光資源があり、墨田区の有する魅力的な文化に触れあう環境があること。

・どの世代も墨田区を楽しめる。両国国技館や東京スカイツリー、飲食店、雑貨店、街並みなど、他の地域に住む人も惹きつける。伝統工芸も魅力がある。また、プールや児童館のような地元の人が使う施設も充実している。今後も楽しませてもらえる期待感あり。

改善すべきところ

（スポーツ）

・区民が使えるスポーツ施設が少ない。現在、総合体育館（ひがしんアリーナ）しかない。

まち全体として大切にしていすべき理念

- ・伝統と革新が融合したまち。
その街の古くからあるものを再定義して、新しい価値を生み出すような、新しさの中に街の歴史を感じさせる都市開発を行うべき。
- ・従来からの地域特性に応じた整備の実施。（新旧に軋轢を生じさせない調和）
- ・新しく集まってくる人だけでなく、古くから暮らしている人も大切にする。
- ・歴史が感じられる地名と建物名の継承。
- ・歴史や文化に恵まれた特性（日本を代表する葛飾北斎の魅力、音楽都市すみだ等）を活かし発展させるべきと考えます。美術館、音楽ホールでの文化活動を通じ、文化を身近に感じ続けていく環境があることで、区民のシビックプライドにつながるとともに、まちの大きな魅力となって、人が訪れて賑わい、まちを元気にしていくと考えます。また、文化芸術は国境を越えて世界に通じるとともに、文化芸術が人の心の拠り所になり、精神的な支えとなって、社会課題の解決にもつなげられると考えます。

人として大切にしていすべき理念

- ・「ものづくり」の伝統と創造性を尊重するすみだ文化の醸成。
- ・歴史と文化を重んじさらなる発展に向け歩むこと。
- ・伝統を学び、大切にするとともに新しいことにチャレンジ。
- ・墨田区の歴史や生活文化を住んでいる街のことを知ること。
- ・歴史のある建造物を大切にし、伝統的な文化を学び、次代に継承する。
- ・墨田区に合う新しい文化を受け入れて、広げる。
- ・歴史や伝統を大切にし、すみだの持つ素敵な文化を我がまちの日常として保持、継承していくことは、人として大切であると考えます。音楽等の文化芸術によって得られる感動を通じて、未来を担う子どもたちの健やかな情操教育にもつながると考えます。音楽都市すみだの実践を広く区民等が知り、地域が身近に音楽にふれあうことで、潤いのある生活につながっていくものと考えます。

※アンケートの原文ママで意見を掲載しています。